



3269  
3



特  
3269  
3

むらけ巻之三

○畜生塚

系師三條橋のお増泉の中畜生塚と云ふは  
 そのもと圓白秀次公伯又大同秀吉公に孫及子公  
 ありと事ありて是れ紀列野ぶ少く自害しあふ  
 山登坂の三條橋の下にりしを公秀次公からみ君  
 二人同くあ女三十餘人とあつり師首のあけり  
 ちとくを獲りしその死骸と師首といふの去  
 中お薬こめりた塚と云ふなり秀吉公の命にま  
 畜生塚と号せりては此の三條橋の對に猪ヶ島  
 何れらと能く支便きり能く徳宗苗河村一の能人

三浦  
 三浦  
 三浦  
 三浦

三浦三浦

わく歌富貴なり。うら小島が姫小石井た門やうりも是し  
能研の子あう笑歌なり。いと同侍こ姫も香世に法  
きね。小島末にゆりきせりい。かみ小運人。倉庫の菊を  
お小島。砂浜をうい。ほしりきる。たの好車。の者あう  
川る。上とろとあ。樹の本も。法に。薬ふ。泉あ。いあり  
ぞおけり。秋に。玩芳亭。といふ。歌。とうを。暇ある。回を  
竹。標に。しりて。琴。うら。と。一。曲。とう。い。う。た。の。一。を。あ。は  
ひ。只。標。花。う。う。り。の。ひ。た。の。地。取。よ。出。目。う。ま。う。家。に  
ゆ。り。あ。よ。ひ。の。程。十。八。六。斗。ま。い。い。ま。い。う。り。し。ま。如。命。の  
い。し。お。表。末。ま。う。る。づ。竹。標。お。り。う。い。か。ま。の。い。ふ。お。氏。御  
と。その。弁。に

あしきまにうらぬ花のむ新や

はぐめはちえんせん昔なりらん

た門や。おい。と。つ。ま。も。や。れ。れ。ど。お。だ。ん。の。せ。だ。た。門。あ。わ  
あ。そ。う。い。あ。わ。の。花。あ。う。か。う。ま。う。人。の。命。と。い  
あ。の。あ。あ。い。い。う。う。つ。う。え。あ。や。と。か。う。ま。う。如。命。打。笑  
い。う。り。か。ち。い。う。う。り。同。侍。の。沖。敵。ら。う。い。今。ま。い  
う。よ。の。あ。う。う。花。お。り。と。香。を。う。う。の。う。く。ま。い。あ。こ。の  
あ。よ。ま。う。と。ま。う。う。ば。ふ。人。ま。う。花。い。ん。う。花。あ。れ。ば。か  
つ。ら。入。り。古。人。と。い。い。ゆ。り。ゆ。う。う。ま。う。う。い。た。つ。う  
あ。う。ん。と。い。ち。う。様。も。ま。の。か。つ。ら。ね。ま。う。う。り。う。う  
う。に。ま。う。に。や。う。う。い。う。う。か。う。う。い。う。う。目。と。ぞ。に。言。う。り



せむらに宿りまひてんやとつふもまづも作にほご  
 えとつふたけけりゆくまらぶんのうたぐりきと  
 つうくたぐいの下徑けをきらと母表事り曉にち  
 ぬりせぬたけきのらんうたけさの感ていづりぬ  
 りざりせら。されどもたけけりあうそく人おあけぬ  
 その野白ぶるもぬんの世の人あわ。ちうぶ後のちま  
 つうあんとさぶくそあかんとまひきぬれども今  
 うぶふもつてびたてをなより上ひらうけい  
 せんよめにうらふらに任り。何せんさうりむあき  
 がかりとらるるそきまか。ある目路りけをさるゆ  
 にどうの事とつひはのりさういせぬ。たけけりとい

どのれお君と祇末をさう妹世のたけけりぬお  
 けちとぐたよんはゆさう。あけけり末をつとまふと  
 けけりぬとてさるるさるるまか。こまきうらまひ  
 せんらまらとて目くくざりまか。たけけりぬらうり  
 ぬいぬい。たけけりぬらうらうらまきくもけり末  
 つままだうとさるまかと悔らう。いふるあうた  
 ぬて子ぬりさうら。君よれと慕い妹ありゆか  
 祈うまらけり。祇ら田といふ色の人はあけぬ又  
 程お代のけいよあけぬ。けりぬらうけりぬらう  
 けりぬらうけりぬらう。けりぬらうけりぬらう  
 けりぬらうけりぬらう。けりぬらうけりぬらう

とらわたりし出雲もあはれ何らうらうらとたれどとこ  
しあふらにらゆりまといふ今子孫久しく人あふ  
恒らうら若くあはれびさやどんうらうら守りて  
妻もくいなうらうらうらうらうらうらうらうら  
とらけみまのつさうらうらうらうらうらうら  
親らうら若年の國定上殿の候も生れつさうらうら  
父母のつさうらうらうらうらうらうらうらうら  
居候し。僑臣さうらうらうらうらうらうらうら  
まらあふらうらうらうらうらうらうらうらうら  
石もせはれさうらうらうらうらうらうらうら  
つあひうらうらうらうらうらうらうらうらうら

海らうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
凡そもせうらうらうらうらうらうらうらうら  
三十餘人の女若うらうらうらうらうらうら  
かつさうらうらうらうらうらうらうらうら  
同らうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
申先うらうらうらうらうらうらうらうらうら  
なうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
大周もあひうらうらうらうらうらうらうら  
及よあひうらうらうらうらうらうらうら  
と一町うらうらうらうらうらうらうらうら  
あひうらうら

はしとくろみこのつるにけがせん

何うぬのもさつりやん

この町一軒お切りきりし舞妓の身ぢめやふれをてん  
がのありとふかたりものへて襷は紙おしあはるさだつ  
おうえんはまをゆひあつてにおしとたつてはるは  
極又舞妓の始末とひまをふらてえと舞妓ふらだ  
周る舞妓をのみやう一は天厨のまじにゆりあひ  
飛ぶの場よ入植成田よ壺あう振成田白に後何るを  
ふらけ祝志に優る他の保と用ひまらびせし舞妓  
あはるあつてのべうけ正秋河上は崩落つて七日も  
さうらにちてく舞妓麻がらちと飽あうけ生舞と殺

あひおれを何者うまそうせん

先事乃よ向のよあれりあ種を

うしろまのしわうらんぼくしよ

まは舞妓にあまこの舞妓あらんと歌ふみのがたり  
酒家舞ふし舞妓の中にその者をつと舞妓は舞妓  
舞妓はあつて満ちてあまがてて舞妓は舞妓舞妓は  
舞妓はあつてあつて女人魚肉と入ると舞妓は舞妓  
舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓  
やあはるさつてあひ舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓  
舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓  
その舞妓に入味舞妓の舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓舞妓は舞妓







我亦住永平寺の恒僧良座と云法格の内の  
 あり。年久しく尚ふに若く座禅觀法四つりたまは  
 是より法住僧信しやと申ひまの記別高  
 野の氏公をたつ一人が氏出の列名座もある  
 を遺る何目とぞお書かほ。こゝろへ貪僧あり。海嶽  
 毛坊へ入りぞりきれば寂りちまぐもす。法のこころを  
 見ゆらひはよちとあり梅檀樹ありと幸ありと申ひ  
 本座よ由とつひ眩と極う。然らるらう。此よまほ  
 有敷とらう。に友人しほり。一人ふ。三十三人  
 海嶽をまつとてくちて也。其りその門一人は樹の影に  
 う。甲りいふに籍ち出あひらる。舟く呼ば。名籍の書えら

小老がせらるへと切あさる。又相あはる。本は梅嶽より  
 ひり。とらう。いんまの信り。ゆるつ。い。の。一人。ん。そ。死  
 せらわや。つ。と。わ。て。あ。と。を。所。良。座。あり。こ  
 長あきく本座とやう。と。何。よ。何。と。小。河。あり。れ。夜。と  
 麻朽より。その。樹。に。つ。い。て。た。ら。わ。と。梅。う。ま。り。その  
 五。ん。枝。是。の。木。板。を。と。ら。あ。さ。る。良。座。を。座。より。う。さ  
 う。ら。お。其。の。翁。と。い。小。文。の。種。あり。麻。つ。さ。り。と。ら  
 此。後。の。事。や。ら。へ。と。ど。か。つ。ら。彼。と。い。孫。り。い。後。の。此  
 さ。け。ら。ら。海。ら。ら。何。を。繼。つ。極。い。極。と。い。神。の。意。思。は  
 ん。さ。け。ひ。こ。こ。此。の。本。と。本。法。よ。ら。何。り。書。な。本。書  
 る。と。い。あ。ん。の。お。と。く。さ。の。彼。の。教。人。あり。こ。樂。を。何





又まほくおき心月記のどくおぬり出し去り  
 有り候し肩河をせむと口ひらきとらうその里に  
 疫病の難あんとし良き屋中ぐろと何をせ其難  
 と被し強くとけ多とて人殺さるる我らりとも  
 下おの小神あり黄符をよめせびらまきその人たの  
 ばう病よあつと定むる宿業あり邪とさうへい  
 と良き屋何やうかん苦ゆとて怖とて一にその難  
 をまぬうるあはれ示し多とて人殺さるる其業を  
 さらしつのお候あり。法徳はけい救生の施とす。後  
 つまやまぬり色あつとて一に候き一徳をうらに  
 何らう救わきとてわたり。海なる人善きとてあはれを

知らぬまをかりたり。再々改行。お社のあつし  
 見し。ついでと成るにやせある。自ら産るの物と見  
 察し。その身を成すにあらざる。又母に背く。むに  
 吾根の法とて。まはりて。親の教をば。あつし。あ  
 貧民乞食に。ついで。その親に。あつし。あ  
 あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 を。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 名の。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 色。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 た。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 皆。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ

信の事と信り。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 つし。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 信。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 醫。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 母。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 生。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 同。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ

○親を尋ね

親を尋ねつて。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 を。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ  
 う。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あ

旅ありし人々をりするは位はさしきし月  
と遊る中に。郷十一軒九にさほ二人のみさしきし  
いし。風霧しき。あは。何。津。舟。か。さ。ん。と。親。親。よ。お。ひ  
う。は。ま。び。し。さ。さ。と。津。と。言。か。に。あ。の。う。ん。と。ま。い。親。や  
お。共。あ。も。や。ぬ。さ。い。し。さ。の。お。二。月。の。お。つ。さ。な。飯。を  
ち。ど。り。ひ。と。さ。さ。し。り。船。よ。の。り。ま。は。お。新。選。風。さ。の。う。お  
あ。う。ぐ。ん。う。い。か。難。は。難。り。肥。後。の。ま。よ。と。ま。よ。さ。る。後。親  
船。の。お。へ。ひ。ま。れ。な。さ。あ。く。久。あ。し。と。對。面。さ。さ。と。さ。り。さ。い  
あ。あ。さ。あ。さ。へ。指。う。と。指。う。の。わ。さ。の。あ。い。う。さ。さ  
ゆ。ま。の。新。舟。の。よ。の。お。け。さ。う。さ。う。さ。ひ。船。お。一。日。く。と  
海。心。お。の。い。回。八。月。ひ。さ。さ。く。選。選。し。ま。は。船。さ。ぬ。く。と。さ。先

ま。れ。と。ぬ。う。く。に。い。い。ま。さ。し。や。る。さ。い。後。よ。親。し。金。泥  
去。老。お。や。と。さ。り。と。ま。さ。さ。り。又。お。よ。の。り。親。と。は。く。海。心。お  
ゆ。い。く。さ。う。と。後。風。さ。さ。わ。つ。あ。う。さ。坂。ら。く。ち。ち。と。来。り  
し。に。船。よ。新。風。吹。く。う。ま。い。も。さ。る。な。津。舟。の。浦。へ。船。と  
よ。せ。ま。は。さ。ん。さ。さ。し。津。よ。あ。が。り。さ。り。と。さ。さ。の。少。屋。し  
入。あり。し。に。船。心。と。う。さ。か。ひ。の。の。さ。か。が。難。風。に。あ。い  
この。浦。よ。ま。う。い。ま。れ。し。と。お。う。し。と。あ。う。し。ん。屋。と。親。さ。ぬ。と  
あり。し。情。あ。は。り。の。あ。う。と。船。と。さ。親。さ。り。ん。が。ら。う。さ。さ。し  
う。ん。さ。い。い。ま。の。び。い。船。に。体。息。し。ま。さ。て。表。飯。を。さ。の。い  
よ。は。よ。う。さ。り。さ。さ。と。津。舟。さ。り。ぬ。く。さ。う。さ。い。あ。ら。う。と  
さ。い。浦。さ。と。親。め。さ。い。い。か。ゆ。お。な。お。さ。う。し。ひ。う。原。氏。の

君との海にみづたれ日見せしらせあひまほが。あつし一の海  
へし四夏のつむぎあつし入るよらう。甲せしむらりうせう  
せくゆらうらうらうきまふ入るよらうせうらうらうらうらう  
然の心とぬいしむらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
田らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
やうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
よ一何らせしむらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
ふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
の情よあつしむらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

陸氏傳うら坂小名ぬわらうらうらうらうらうらうらうらう  
業やぶらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
あやうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
海やも何らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
是らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
まはらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
はよりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
と醫者らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう









わが世にあり人の死生の理をわきまめしむる書に記されし  
 事とて世にぞ深井の淵とてさうさうに深き淵とてさうさ  
 人の世とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵とて  
 つまじき事よのわりとて深井の淵とてさうさうに深き淵  
 とて深井の淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 親友の世にぞ極つる本にぞ親友とてさうさうに深き淵  
 みの世にぞ極つる本にぞ親友とてさうさうに深き淵  
 深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 んにぞ極つる本にぞ親友とてさうさうに深き淵  
 ありて世にぞ極つる本にぞ親友とてさうさうに深き淵  
 とて深井の淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵

○松永強正陸地獄

中嶋武志忠とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 此に深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 おひより深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 ねえとてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 おまより深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 の男にぞ極つる本にぞ親友とてさうさうに深き淵  
 ておひより深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 ちあつちおひより深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵  
 して深き淵とてさうさうに深き淵とてさうさうに深き淵

一とりの。或は忠つおどろきおどろきおどろき。平生別よ抱  
せり。忠業あり。もどけて。おどろきおどろき。と俺まじり  
ず。忠業あり。おどろきおどろき。忠業あり。おどろきおどろき。  
あつこのいしをさぶらう。とつどをたれどもかゝりしとて  
家よいらん。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
てりたやう。とつど。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
甲はくちふをあげ。書やふいづく。おどろきおどろき。  
をさすけり。とつど。書やふいづく。おどろきおどろき。  
あつこのいしをさぶらう。とつどをたれどもかゝりしとて  
家よいらん。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
てりたやう。とつど。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
甲はくちふをあげ。書やふいづく。おどろきおどろき。  
をさすけり。とつど。書やふいづく。おどろきおどろき。

あつこのいしをさぶらう。とつどをたれどもかゝりしとて  
家よいらん。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
てりたやう。とつど。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
甲はくちふをあげ。書やふいづく。おどろきおどろき。  
をさすけり。とつど。書やふいづく。おどろきおどろき。  
あつこのいしをさぶらう。とつどをたれどもかゝりしとて  
家よいらん。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
てりたやう。とつど。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
甲はくちふをあげ。書やふいづく。おどろきおどろき。  
をさすけり。とつど。書やふいづく。おどろきおどろき。  
あつこのいしをさぶらう。とつどをたれどもかゝりしとて  
家よいらん。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
てりたやう。とつど。或は忠つゆらけらんとすれども男の  
甲はくちふをあげ。書やふいづく。おどろきおどろき。  
をさすけり。とつど。書やふいづく。おどろきおどろき。



そのまゝ好氏に係叛し、大軍を率ゐるも、  
を執し、南都大佛殿を焼亡せり。此のとき、  
前代末園の凶事、由て凡そ、人の性あり、  
うらの一怒も、悔くたすべし。昔も、あゝ、  
考例し、すくまき、極悪人あり、  
けつり、されは、汝始、後久考、よきま、  
りの、知よ、志、ごり、の、罪、科、極、  
ま、と、向、あ、武、を、違、  
あ、て、一、久、ふ、通、ち、り、の、松、永、強、  
す。又、係、及、と、い、何、事、を、い、  
色、受、へ、な、一、と、い、ふ、の、時、  
二十

を、引、立、り、れ、り、他、の、奉、  
り、あ、ま、の、  
と、  
ふ、の、時、  
ふ、の、大、  
泥、を、  
の、の、  
透、り、  
武、  
河、内、  
い、く、  
二十

めのこまの産よつきのけだまは、うよまの身の手、いさひや  
 あつちあつちすとのこまひ、武蔵守お伏、いりあふれ  
 げむい、松平久秀が軍をおめて侍り、ちかぬをむ  
 久秀がめんを執、お軍を執せんしする時、けがらひを  
 して口を極めて、泣き、いも久秀あふれむ、おひひひい  
 ちりりりれ、げが罪をあふれ、たまあふれ、密かしくゆり  
 めんとこまびかり、たまあふれ、いさひ、武蔵守、けがらひ、あふれ  
 推して罪をかへ、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 らあべーよのこまひ、ふさふさ、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 ーが、浪史のおい、ごごご、天地変、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 めく、電、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご

まつぬ、鐵陣、ごごご、侍り、浪の細、廣く張り、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 る、怪火の烈、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 頭馬頭のめ、鬼ごごご、一人の罪人、を火車に載、なぐ人を、い  
 虚、やうり、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 と、おひあ、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 して、かの、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 ころ、ちん、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 おひ、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 鉄の、伽を、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 の、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご  
 め、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご、ごごご









